



チェッカータイルが敷き詰められた暗い地下の一室。

その部屋の中央がライトアップされ、映し出される女が一人。フリルと長いスカートが目につくその姿は純潔なメイドを思わせるが、異様なことに女の手足、そして乳房はラバーに包まれ妖しい光を放っている。

さらに異様なのはその口元を覆う大きなガスマスク。女が息をする度に空気の抜ける音がマスクから聞こえてくる。

「シユコォー、シユコォー、んっ……」

女は乳房に手を置き、何かを待っているように膝を付く。

部屋の四方から突如スイッチ音が鳴り、無機質な電子音が聞こえてくる。ビデオカメラのスイッチが入ったようだ。その音を待ち望んでいたようである女はマスク越しに笑みを浮かべ、自分の長いスカートをゆっくりと捲り上げた。

「シュコオー・・・ご覧、下さい・・・私のおそこ・・・」

その中には下半身を覆うラバー、そして金属製の貞操帯が姿を現した。貞操帯には南京錠が掛けられており、金属の隙間からローターの刺激で溢れる愛液を垂らし続ける。



刺激に我慢できなくなったのか、女は片乳と股に手を置き、自慰を始める。しかし貞操帯で守られた股には触ることはできず、金属の上から擦る真似をしながら、乳首をラバーの上から執拗にこねくり回し続けた。

「んっ、ああ……はあ、ご主人様っ……コフウ……」

乳首の刺激だけでは達することのできない女は、それでもなおラバーの擦れる音を部屋に響かせながら自慰に耽る。

























今夜はご主人様の犬を連れて夜の御散歩。
今日は私の調教も兼ねてるそうでドキドキ
しています、犬の方もひどく興奮した様子で
時々苦しそうに体をこすりつけてきます。
外出の前に授乳薬を飲んだ私は胸に搾乳器
を取り付けてチューブの先端を犬の口元に取
り付けました。

またお腹が膨らむギリギリまで浣腸を施し
私のお尻とチューブで繋ぎ、相互浣腸の状態
での御散歩となります。

暗い夜道を怪しく光るラバーとチューブで
繋がれながら散歩する姿は端から見れば異様
かつ変態的な行為であり、浣腸の息苦しさ
と羞恥、微弱に動くパイプの快楽とが入り交じ
った感覚に高い高揚感を覚えます。

「んっ・ぐぐ・」

耐えきれなくなった排泄物はチューブを伝い
私の尻に注ぎ込まれていきます。そして再び
チューブを伝い元のお尻へ浣腸されるのです。



この犬の名前はカレンと呼ぶそうで、ご主人様が言うには彼女自身が今回犬になることを希望したとおっしゃいました。

いやらしい子・・・と思いながらも人の事は言えず、散歩道も半ばに差し掛かった所で少し休憩を入れました。

「カレン、私のお乳は美味しいですか・・・？」
「・・・ワン、くうーん・・・」

マスク越しから答えた声は人の言葉ではありませんでした。完全に犬に成りきっている彼女でしたが、どうやら同意してるようです。帰り道では、相互浣腸と搾乳の快楽に我慢できなくなり、軽く絶頂してしまいました。カレンも時折その場で身を埋めてアクメを迎えながらも犬のように息を荒げ、ようやく帰りに着いたのです。







「月村 遥、君は何故今この姿か理解できてるかいい？」
「・・・はい、マ主人様。遥は粗相を犯した罰として
繋がれております。」

「ふうん、どんな粗相をしたんだい？」

「っ・・・それは、絨毯を汚してしまったからです。」

「どうやって？」

「う、うう・・・お、オナニーをしないでマ主人様の
絨毯を汚してしまいました。」

「そう、君は僕の許しもなくオナニーしたところか
僕の部屋の絨毯まで君の愛液で汚してしまった。
そんなに気持ちいいのが好きなら、君が嫌になる
くらい、気持ちいい目に遭わせてあげる。」



「えっ・・・ご主人様、どういう、うぶっ」

「これで君の口から大きな声は出せない。」

「この屋敷には誰もいないけど、お仕置き中に大声で」

「叫んで外に聞こえて怪しまれたら困るし、ね？」

「んっ・・・んふう、ふうー、ふうー」

「はは、鼻息荒くして、興奮してるのかい？」

「は、い・・・地下室でなく、こんな普通の部屋で」

「こんなことをして、誰かに見られてるんじゃない」

「かと、とても興奮、します・・・」

「もどかしそうに胸を揺すって・・・君は本当に淫乱」

「な女だね、反省してるのかい？」

「あっ・・・も、申し訳ありません。」

ハァ♡

ハァ♡

ハァ♡



「これを付けても同じ調子でいられるかな？ほら。」
「・・・？ガスマスク？んっ・・・匂い・・・！
何か、おかしいです、頭がボーっとして、体が」
「これはね、媚薬入りのフィルターが入ってるんだ。
強烈なヤツだから5分もすればもう何も考えれなくな
るくらい体が火照って来るだろう。」

「んっ、ま、ご主人、さつま・・・！はう、う。
ふうー、ふうー、ふうー、く、苦しい・・・。」
「じゃ、僕は少し出かけるから、後よろしくね。」
「や、ご主人さま！そんな、お許しください・・・！
こんな、狂ってしまいそう・・・！」
「すぐ戻るよ。何時かは、まあ気分次第かな。」



「グウウーッ、ウー、グウー……」

「ふうー、ふうー、ぶ、ふうーく、苦しい……
もつと、気持ちよくなりたひ、掻き回したい……」
「カチャ、カチャカチャ……」
「グ、ご主人さまあ……早く、帰ってきて下さい、
もう、切なくて、もう……限界なんです……!」

「んっ!んん……はあ、うっ、駄目え、ローター
だけじゃ全然足りない……!うう、ウウ……
ご主人様、ぐす、ご主人ひや、まあ……!」
「はあー、ふうー、はあー……!い、いき、たい
オマンコ、乳首……誰か、誰か助けて……
誰か、遥を犯して、犯して下さい……!」

「ハァ……ハァ……」
♡

「ハァ……ハァ……」

「グッ……グッ……」

ガッ ガッ

ガッ ガッ

「グウウーッ、グウウーッ・・・」
「・・・ただいま、たっぷり楽しんだみたいだね。」
「んっ・・・ふあ？・・・オマンコ、イかせて・・・」
「なんでも、聞きまひゆから・・・あぐっ」
「ふふ、いい顔になったね。綺麗だよ遥。」
「あっ・・・ン・・・はあ、うっ・・・」

「君の乱れ様も見せて貰ったよ。最後は凄かったね
ストリップショーみたいに腰を振ったりくねらせ
たりして・・・」
「そういえばもう一人、君みたいな人でカレンって
子がいるんだけど。今度は彼女も一緒にやってみ
たいね・・・凄い絵になりそうだ。」

















いつも変態な僕の欲求を満たしてくれてるラバーフェチのメイド、遥さん。今日はそんな彼女の日々の疲れを癒そうと海水浴場に足を運んだのだ。

「あの…ご主人様。これ、凄くえっちな見えないですか…？」

そう言いながら遥さんは隠せる筈もない自分の肉体を必死に両手で覆いながら、そわそわしていた。

うん、実に良い格好だ。

「そんなことないよ、似合ってるよ。」

ほら、前に立ってよく見せてご覧。」

股から胸でVの字になった彼女のその真っ赤な際どい水着姿は、ラバー姿とは違ったセクシーさを感じられる。彼女のち切れそうな胸と、尻に食い込んだTバックとが実に直感的で、ワイルドなエロスを醸し出していた。





「ど…どうしてグローブとブーツも履かなきゃいけないのですか…?」
「それは浜辺の貝や破片で怪我をしないようにする為さ。家事をする君の手足に傷付いたら支障がでるからね。」
我ながら実にムリがある理屈だが、僕の命令に服従する彼女は自分で脱ぐこともなく、ただ恥ずかしさに身悶えている。特異とも見れるその姿に道行く人は皆彼女の胸を、尻をジッと凝視していくからだ。
「はは、向こうの彼、ここからでも分かるくらい勃起してっつち見てるよ。」
「…!やっ…!恥ずかしい!」
普段ほとんど素肌を晒すことのない為彼女にとってはかなりの羞恥らしい。
…これは当分楽しめそうだ。

●月▼日 海水浴場にて。









謹賀新年

2017 <http://dom03.biz>

ハルカミの
A V 制作
日記



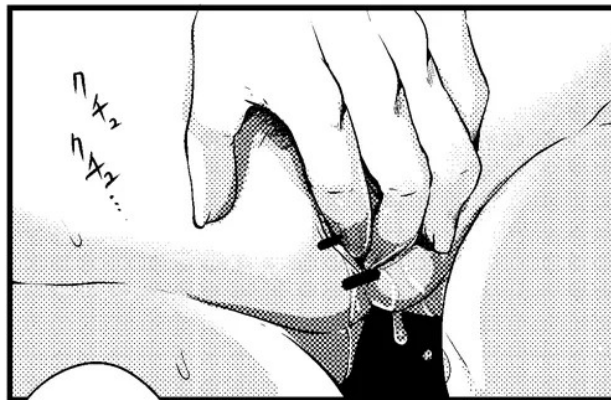








んふっ…
あつ、ふあ…っ



ほら、こんなに
グチヨグチヨだ。



くばあ



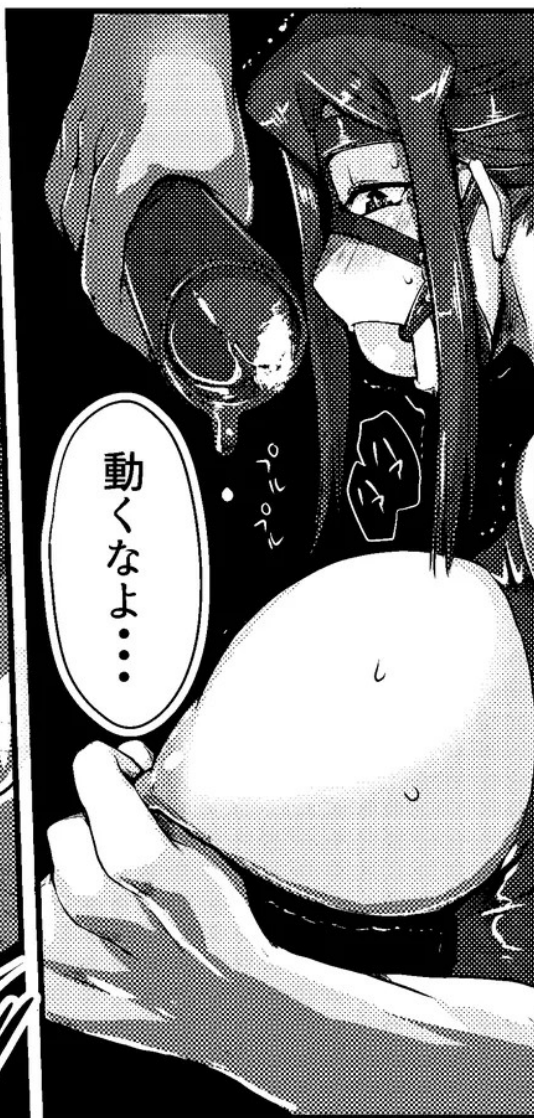
んっ…んん…

んんん…
んんん…



呆れたな…
こんなので感じてるのか？

りゅるりゅる







ケツを上げろよ
こいつが
欲しいんだろ？



ふうーっ
ふうーっ
ふうーっ…



んぐっ！

フンツ…！



んっ!
んぐうー!

おっ、おっ! おっ!



啼け。



ほら、ケツでイけ！
叩かれてイけ！

おっ！
おっ！

んぐおー！
ぐおおお！





ご主人様、今日のオカズを
持ってきましたよっ！

自発的にオカズを持ってくるのは
(しかも自分の)何か違う気がする…

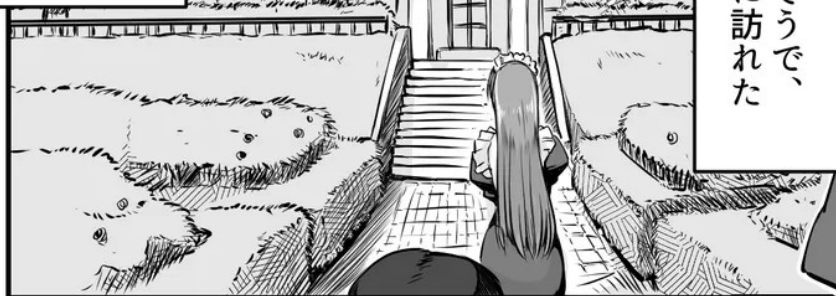
でもしつかり使う。



遥と初めて会ったのは
親父の遺産で譲り受けた
屋敷に来てすぐの事だ

彼女は親父の使用人だったそうで、
俺の下で働きたいと私の元に訪れた

近く人を雇う予定だった
ので、しばらく泊めて
様子を見る事にした



今にして思うと、私は
その時すでに一目惚れ
してたのかもしれない

清楚な立ち振る舞いで、時折見せる仕草が愛らしい
魅力的な女性：だと思っていた、あの時までには。



ある日、部屋に訪れた遙に
私は突然押し倒された

ご主人さまっ
もっ……

もっともっ
突いてっ……
ケツ穴たくさん突いて！

ご主人様のおちんぽ
大好きですっ……！！

今まで見せた佇まいなど何処吹く
風で、嬉々として淫猥な表情を浮かべた
彼女は私の体を無我夢中で貪った

重度のラバーフェチな彼女は
メイド服の下にラバースーツ
を来ているそうで、この時も
その格好のまま行為は続いた



遥との壮絶な破廉恥劇は、どっぶり
深夜にかけてようやく落ち着いた

彼女は何も語らず、従順な
態度でいつものように
尽くしてくれているが…

ん…

はぁ…
ちゅぽ…

後に親父が抱いていたメイドなのだと知り
なんとも複雑な気持ちで、遥と私との
よくわからない自堕落ライフは始まった



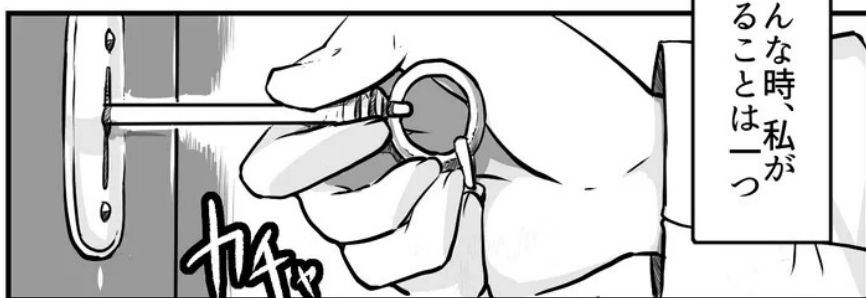
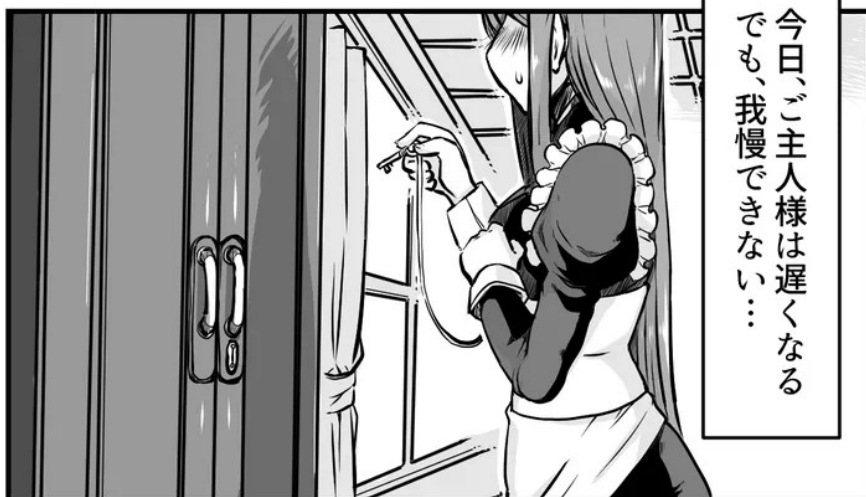
「
ところで、エッチの時に
カチューニャはとろなの？」
」

フンスッ

これは私の
アイデンティティなから！

「
あっ……えう。」
」





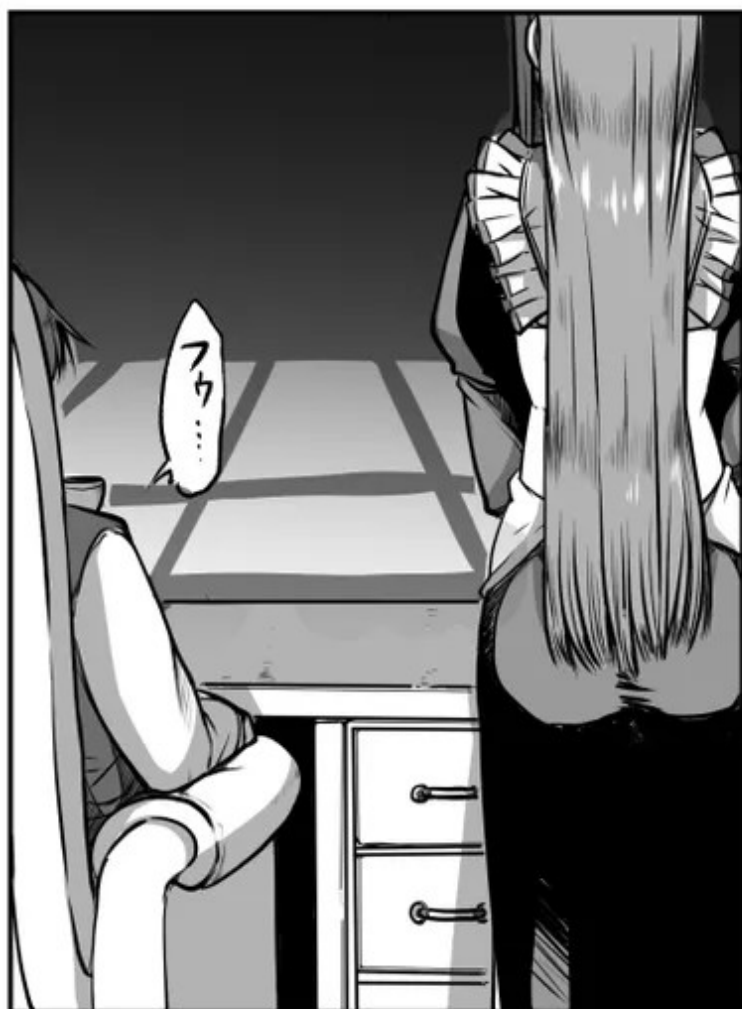


遥は、機嫌がいいと
よく鼻歌を歌う。
(微妙にうまくない)



遙さん
おくちで遊ぶの巻







そういえば、ご主人様

フェラマスクって
ご存知ですか？



突然すみません…
大丈夫でしたか？

先程のお話ですが
こんな物を買いました

フェラマスクって言うのですが
いかにもな形をしていますよう…？

折角なので私、
付けてみますね…



ホッ、ハッ……

んべえあ……ハア……

んんっ、あっ
んほお……

これ、すごく恥ずかしいです……
私のお口、舌の奥まで丸見えで
よだれが止まらない……



あっ、はあ……

嬉しい……
私の痴態を見て勃起
して下さってるのですね……

ご主人様……
もう我慢できません
卑しいハルカにおチンポ
お恵みください……

見えまひゅか？ 精液を食うだけの
形をした私の不細工な顔……
これを付けるだけでご主人様のおチンポが
欲しくてたまらなくなってしまうのです……

……んばあ、美味ひい、
美味ひいれす、ご主人ひやま……
イキそうならイってください

ご主人様の熱い精液、ハルカの喉奥に
ぶち撒けてくだひゃい……！







あら…すこし絞り取り
過ぎてしまったようです…



今夜もこれ
お楽しみを…って

ふふっ、いかがでしたか？
とても素晴らしいでしょう



もし
もし？
…んはあ

ニャー

ちゅぽっ
ちゅっ

ヒカ…
M…
お願い
します

ご主人様、見ててくださいいね
今日はご主人様に喜んで頂けるよう
色々と買ってきましたので

……ふふ、着替えるだけなのに
なんだかちよっと緊張してしまいますね



……その……いかが、でしょうか……
思い切って買ってみたのですが
お気に召しましたでしょうか？

や、やっぱり普段こういうメイド服は
着ないので、逆に恥ずかしいですね……



に、似合ってますか…
お褒め頂きありがとうございます
…とても、嬉しいです、ご主人様

…あつ。そ、それで他に
こういうのも買ったんです



新しいフェラマスクです
以前のはご主人様のサイズと少し
合わなかったので、入口を調整してます

これでフェラやイラマチオもしやすい
んじゃないかと思えます……たぶん



あとはこのガスマスクですね
呼吸制御プレイ……ブレスコントロールに
使用する器具で、ボンベには媚薬ガスが
入っています

……えっ、早速使って欲しい？
か、畏まりました……使いますね



シューツ、シューツ・・・あっ・・・
これ、ちよつと強いかも・・・です・・・
シューツ・・・頭が、ボーっとしてきて

すごい・・・もう濡れてきました・・・
：ツハア・・・ご主人様、今日・・・宜しければ
これで遥を虐めて頂けませんか・・・？

















遥さん、お疲れ様
………?どうしたの
その恰好のまま

も、申し訳ありません
ずっと我慢していたのですが

プルプル

プルプル

収まるまで、ちょっと
待って……ください

今動く……で、
出ちやいそうで……

ハァ

ハァ



ふーん……
——ならここで脱がすから
いいって言うまで我慢してね

ええっ！ご主人様
そんな、……！

ほんと、本当に限界なんです
このままだとラバーの中で
粗相を……！

ダメ、我慢して





.....ピッ

ご主人様ツ・・・
なんでローターの
スイッチを入れたの
ですか!?

はっ、はやく!
早く脱がせて、くださいッ

ハッハッハッ...

グルグル



.....ッ!んっ.....
これ、ダメッ刺激が、強くて...
でちゃう、でちゃいます

——ッ
で...でちゃう...!

加々加々

加々加々

加々加々



ああっ—
も、もれてます、もれ…

ご主人様、お許しください
もう、これ以上は…

ぽっ

ぷっ

ぽっ

ぐすっ、ダメッ…
やっ、もれてるのお…！

ぽっ

じゅあ…

ちやうちやうち…

ちやうちやうち…



…もういいよ。

あッー

あッー

ちん



…いったんだ
遙さんは変態だね

ッ…は、はい
オシッコで、イキました…

フー♡

フー♡

フー♡

フー♡

フー♡

粗相をしてイッてしまう
変態なメイドで、申し訳
ありま、せん…

うる
うる

水た

水た





まだニオイ
残ってる……？

















お人様ニ
テマセテ
サマシ
マシ

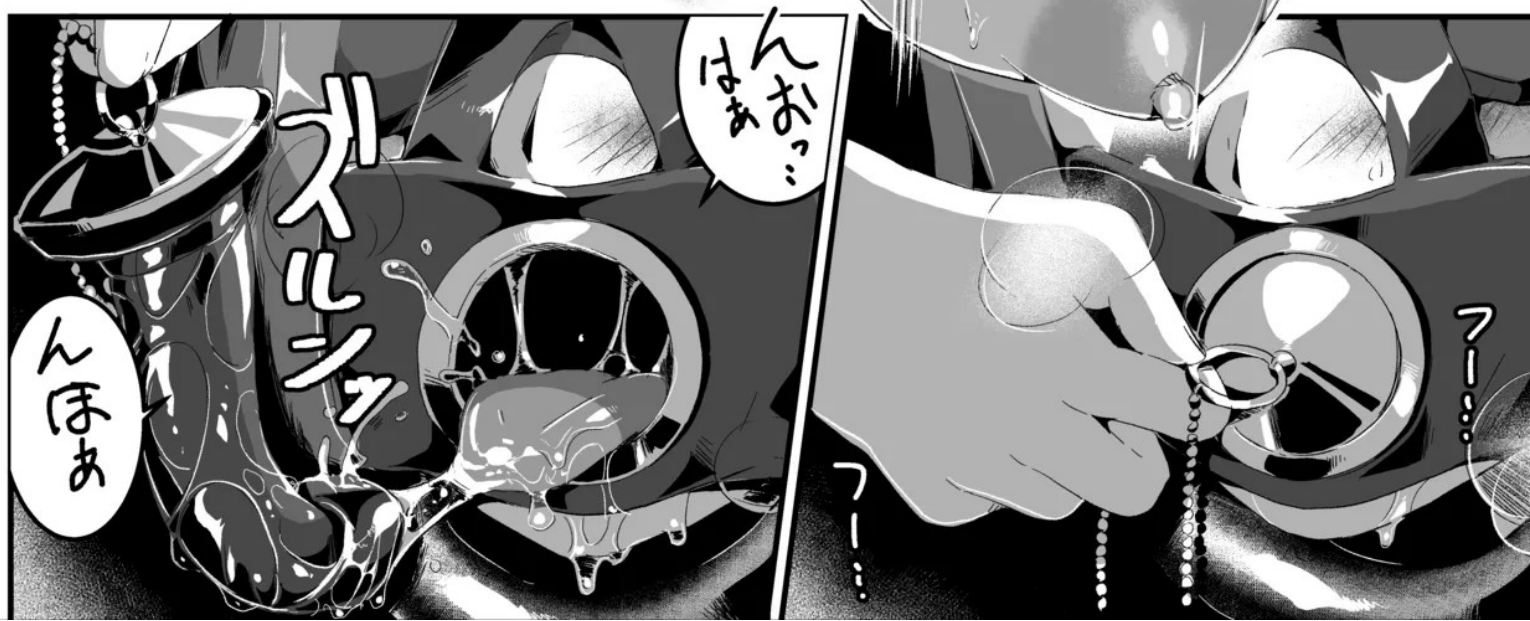
遥かんと

便器

いっへん











あぁー♡...♡...♡...♡

ヒッヒッ

ヒッヒッ

ギッ ギッ

ヒッ

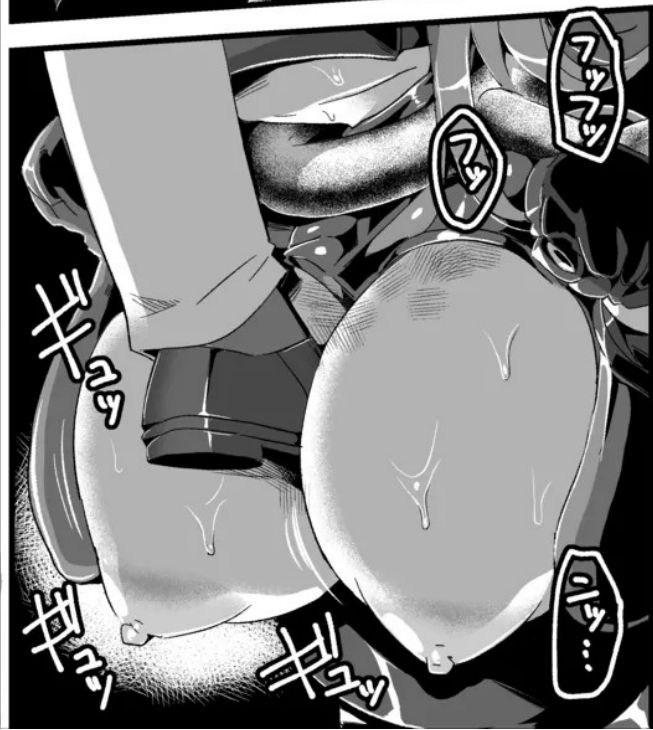
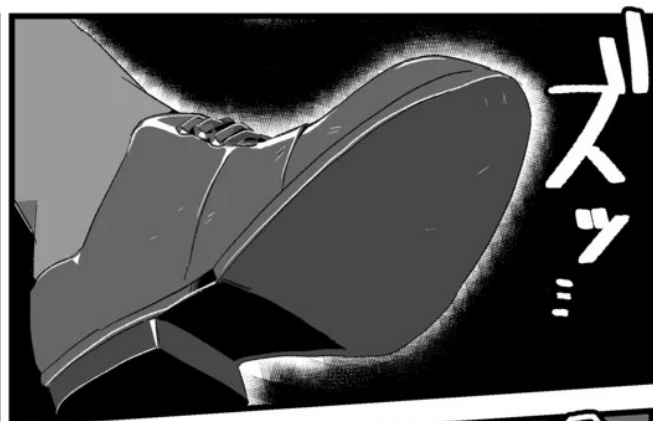
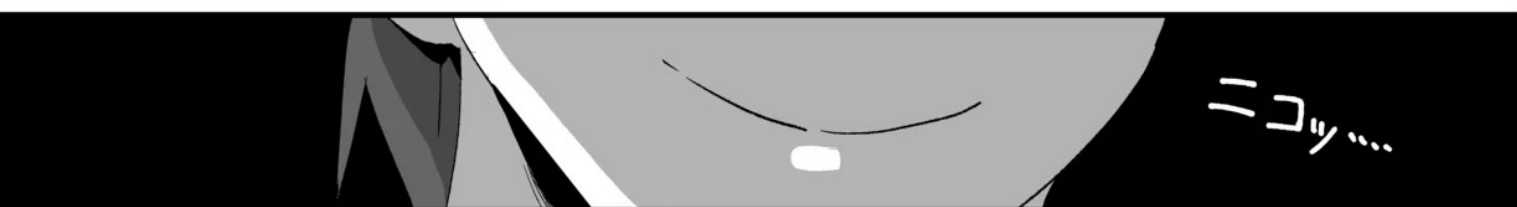
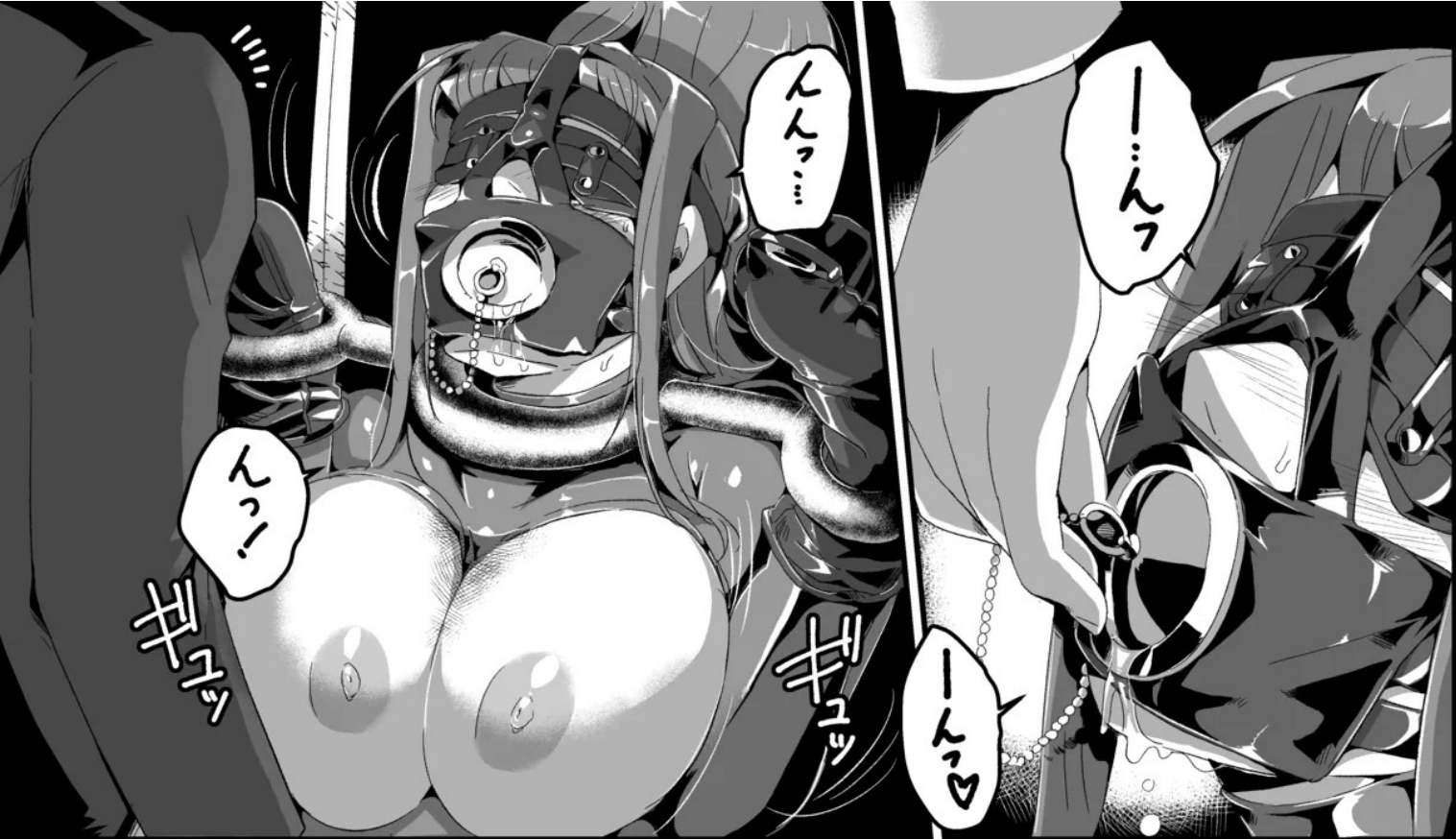
ヒッ

はぁぁ♡...♡...♡

はぁぁ♡...♡...♡

ギッギッ

ギッギッ







カチャカチャ...ズツ...



んっ...

ハア

—おはよう
ございます...

ハア

カチャツ

ハア

ご主人...
さまっ♡

カチャ

その後――。

ハニ主人様♡

下

かへ

か

和和

